

JHFREPORT



2016年パラグライディング日本選手権 in 吉野川より。P8からの報告をご覧ください。

2017年、安全で楽しいフライトを。

2017年。今年は世界選手権イヤーです。5月5日から14日までアルバニアで第9回パラグライディングアキュラシー世界選手権、7月1日から15日までイタリアで第15回パラグライディング世界選手権、7月24日から8月6日までフランスで第20回ハンググライディングクラス2世界選手権、そして8月6日から19日までブラジルで第21回ハンググライディングクラス1世界選手権ならびに第14回ハンググライ

ディング女子世界選手権が開催され、クラス2以外の世界選手権に日本を代表する選手たちが出場する予定です。いつもと異なる環境の下でも実力を発揮できるようにと祈ります。

昨年はパラグライディングの平木啓子さん、ハンググライディングの磯本容子さんの世界記録が国際航空連盟によって公認され、日本航空協会航空スポーツ賞を受賞。パラグライディングアキュラシーアジア選手権では伊藤ま

り子さんが女子チャンピオンとなり、ハンググライディングクラス5世界選手権では日本チームが団体3位入賞するなど嬉しいことが続いた一方で、重大事故が繰り返されました。

今年もまた事故が続くことのないよう、フライヤー会員の皆さんは、各自の力を客観的にとらえ十分な安全マージンを確保し、無理のないフライトを楽しんでください。JHFも引き続き安全性向上の努力を続けていきます。

スポーツ&LIFE



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

「ハング・パラグライディングの未来のために」

役員の任期満了に伴う改選 JHF役員選任実行委員会

本年6月定時総会で、現任役員の任期満了に伴う改選が行われます。

JHFの理事ならびに監事の任期は、定款第27条により「選任されてから2年目の定時総会の終結の時まで」と定められています。なお今回から、改定された規約（後述）に基づいて実施されます。

以下、JHF役員の選任について説明します。

1. 立候補資格者

JHF役員選任規約第9条に定められているとおり、立候補届出時に有効なJHFフライヤー登録者で、かつ住民票所在地の都道府県連盟（JHF正会員）に所属し、住民票所在地または活動地域の都道府県連盟から推薦を受けた方なら、誰でもJHF役員に立候補する資格があります。

ただし、上位の法律（公益認定法）では、公益法人の事業を行うにあたり、役員・正会員・職員に特別な利益を与えることを禁じる旨が明文化されており、自己に有利な利益誘導があれば罰せられます。

2. 選任方法

選任のための役員立候補者の募集活動や、選任事務は「役員選任実行委員会（以下、選任委員会）」が実行します。

役員の選任は、概ね以下のスケジュールで行われます。

◇役員選任議題のある総会の約10週間前（4月上旬を予定）に選任委員会が選任公示を行います。選任に関する資料を正会員に配布し、JHFホームページにも一部掲載します。

◇総会の約6週間前（5月上旬を予定）に立候補受付を締め切ります。

◇総会の約4週間前（5月中旬を予定）に立候補者の公示が行われます。

総会当日（6月中旬東京都内の会場での開催を予定）は、役員選任議題の場で、正会員が投票により立候補者それぞれに選任の決議を行います。開票後、過半数の賛成票を得た立候補者のうち、役員定数内の得票上位者が役員として議決されます。

3. その他

(1) JHF組織

JHFは正会員とフライヤー会員が構成員となり（下図※）、公益認定時に公益認定等委員会へ届け出た「公益に関わる事業で、かつ不特定多数の者の利益の増進に寄与する事業」を行います。

JHFの事業や規約等は、法律の範囲で正会員によって構成される「JHF総会」が決定します。総会によって選任されたJHF理事は「理事会」の一員として法と定款および総会決議に基づき、責任を持って業務を執行します。

また、総会で選任されたJHF監事は、法や定款および総会決議に基づいたJHF活動が行われているかを監査します。（※下図では賛助会員を省略）

(2) 理事の主な役割

○定時総会・臨時総会の招集を行う。

○総会議題議案の決定と正会員への通知を行う。

○理事会への出席（文書理事会による決議を含む）。

○JHF事業の業務執行と経営統治権限による職務を忠実に執行する。

○JHFに損害が生じる恐れのある時は正会員に報告する義務がある。

○代表理事会長の選定および解職を行う。

○理事の行為によるJHF損害への賠償責任を負う。

○委員会の設置および委員の選任権がある。

○収支予算・事業計画作成権を有し、会長が作成し理事会が承認する。

(3) 監事の主な役割

○理事の職務が適正に執行されているかの監査を行う権限と、監査報告を作成する義務がある。

○JHF業務や財産の状況を調査する権限を持つ。

○理事に不正行為の恐れがある時は理事会に報告しなくてはならない。

○理事会に出席し必要ある時には意見を述べなければならない。

○理事不正行為にかかわる理事会招集請求権を持つ。

○総会議題議案や資料を調査しなければならない。

○理事の行為差止めの権限がある。

(4) 理事会

理事及び監事が招集される理事会が年に6回程度JHF事務局にて開催されます。

また、電磁的手段（電子メール等）による文書理事会が月に1回程度開催されます。

(5) 役員選任規約の変更点

2016年定時総会にて役員選任規約の改正案が議決されました。

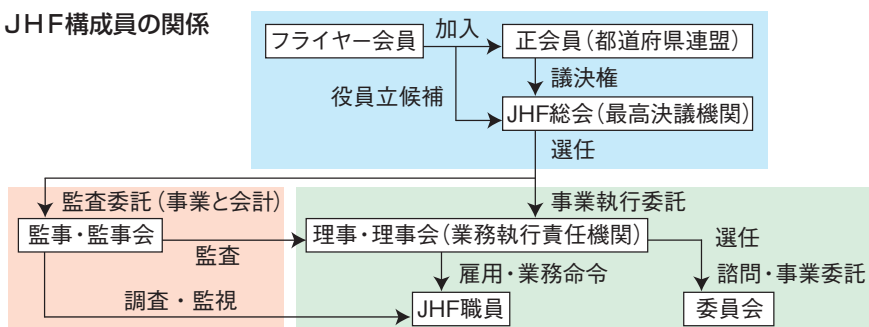
役員選任実行委員会と制度委員会では、2015年に行われた役員選任における課題点を検討し、2016年定時総会に役員選任規約の一部改正を上程しました。

当規約の変更は総会にて行うことが定められています。当改正案の主たる部分は以下のとおりです。

○役員選任実行委員会が、役員業務遂行能力を立候補時に確認できることとした。電磁的手段が行使できるかどうかを確認できることを明記しました。

○住民票所在地以外の正会員が役員候補を推薦できることとした。居住地と活動地域が異なるフライヤーに対しても、役員への門戸を開くこととしました。

JHF構成員の関係



- (6) 本年の役員選任にあたり正会員への依頼
- 役員推薦にあたって、正会員に推薦理由文を提出していただきます。提出いただく推薦理由文は、立候補者本人の立候補意思表明書と同様に、一般に公開いたします。
- 他都道府県在住者を推薦する場合は、立候補者が住民票所在地の正会員に所属していることを確認した上で推薦をお願いします。
- 立候補意思表明書（以下、意志表明

書）に、立候補者に最低限回答して欲しい質問項目を設けます。立候補者には質問に対する回答を含めて意志表明書を作成していただきます。この質問項目を広く募集します。選任委員会は、正会員からの提案を参考に、意志表明書の作成要領を作成します。質問項目の提案を2月28日まで受け付けます。立候補者に回答を求めたい質問項目がある正会員は、下記までご連絡ください。

jhf-rikkouho-q-2017@googlegroups.com

以上をご理解いただいた上で、JHFの運営を積極的に担っていただける方を広く募ります。

ハンググライディング・パラグライディングの未来のために、空の仲間のために活動したいという方、ぜひ立候補してください。

役員選任のスケジュール等は、JHFウェブサイト上でお知らせしていきます。電話・メール等でのお問い合わせはJHF事務局まで（電話番号等はP16をご覧ください）。

JHF理事・監事から

任期最後の半年にやりたいこと・フライヤー会員の皆さんと共有したいこと

2015年6月定時総会で選任された理事・監事は、今年の定時総会で任期満了を迎えます。あと半年の間にどのような活動をして任期を締めくくのか、それぞれの抱負を述べてもらいましょう。

会長 内田 孝也

今年は3年ぶりに教員検定員が更新します。JHFでは、指導層の向上により事故を無くし、その効果で愛好者数の回復を狙っています。しかし有効登録者数は減少を続けており、対策を加速したい所存です。

副会長 安田 英二郎

フライトを規制する法律がないからといって、どこを飛んでもいいということではありません。他人に迷惑をかけることは法律以前の常識です。人に迷惑をかけ続ければ法律や条例による規制が始まり、自由なフライトはできなくなります。今年はこれに取り組みたいと思っています。

理事 芦川 雄一郎

昨年MPG、PGの重大事故が発生しています。飛行前点検（クロスチェック含む）、体調管理、無理をしない等、基本を重視し安全第一のフライトをお願いします。

飛び続ける環境を作って行くのはフライヤーひとりひとりの行動にかかっています。

年初にフライヤー宣言を再確認して楽しくフライトしましょう。

理事 市川 孝

公益社団法人としてのJHFの活動は、厳しい法律の規制の下で、公平・公正・厳正な組織の運営や行政府への対応が重要な施策となります。今後とも自由なフライトを維持するため、こうした面への取り組みを進める必要があります。

理事 大澤 豊

安全とは何かを一人ひとりが考え、安全第一で楽しく飛びましょう。今年は競技も盛り上げていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

理事 日下 敏彦

還暦という人生の節目をどうにかのりこえ、生活環境も落ち着きをみせてきました。

新年をむかえ、心をあらたにし、フライトできる環境づくりに公私ともに継続して取り組んでいこうと思っています。

理事 塩坂 邦雄

今年も「フライヤー宣言」を厳守して、いつまでも自由な空を共有できよう皆様と共にJHFを盛り立てて行きましょう。

監事 岩村 浩秀

気がつけばJHFの監事として3年目の正月を迎えました。

現役フライヤーではないため、なかなか現場で接することはないのですが、ハングパラに対する会員の皆様の情熱は、感じています。

連盟としても、公益認定後初の検査もクリアして順風満帆と言いたいところですが、やはり会員数の減少と高齢化、そして重大事故の発生と、連盟の役割・必要性は益々重くなってきています。そんな中で会長を中心に、ひとつひとつクリアして行くべく今年も頑張りたいと思います。本年が素晴らしい飛躍の年となるようよろしくお願いします。

JHF賛助会員：連盟活動のサポーター

JHFは3種類の「会員」で構成されています。まず正会員は全国47の都道府県連盟。フライヤー会員はJHFにフライヤー登録をしている皆さん。そして賛助会員は「JHFの目的に賛同し、援助する意思を持つ個人及び団体」で、2017年1月1日現在の賛助会員は次の各社です。

賛助会員：東京海上日動火災保険株

式会社／日本印刷株式会社／株式会社ラ・ムエッティ／三和通信機有限公司／株式会社ジャパンエニックス／株式会社オフィスムーン／ACB-aviation事業部／エア・カッシー／有限会社さんじゅう／スルガ銀行／株式会社橋田／株式会社スポーツオーバカイト／株式会社フィールドジョイ

2016年の事故に学ぶこと

JHF安全性委員会

2016年の事故報告

【パラグライダー】

- 2月 ミニパラグライダーで判断操作ミスにより墜落。37歳男性。頭部骨折／重症
- 2月 トップランディング時に失速。63歳男性、経験17年。腰椎骨折／重症
- 3月 体験ロープトローリング。27歳女性。腰椎骨折／重症
- 3月 テクオフしてからの判断ミスで墜落。52歳男性、経験3年。胸部骨折／中症
- 3月 雲中飛行不時着（視界不足）。66歳男性、経験23年。足骨折／重症
- 4月 着地失敗。61歳男性、経験10年。手首骨折
- 5月 周囲確認なしスパイラルによりパラグライダー同士接触し樹上不時着（ツリーランディング）。61歳男性、双方無傷
- 5月 着陸時失速スピン。49歳男性、経験10年。腰椎骨折／重症
- 5月 ランディング場に届かず湖に着水。50歳男性、経験6年。溺死
- 10月 ランディングアプローチ中、低空で片翼潰れ、墜落。44歳女性、経験8年。骨折／重症
- 10月 ランディング場付近、高度約20mから旋回落下。68歳男性、経験15年。全身打撲／死亡
- 10月 パラグライダー同士衝突。72歳男性、経験20年。頸椎裂傷。55歳男性、経験30年。胸部骨折／重症
- 11月 インド、墜落。マスコミ情報のみ。JHF登録なし、詳細不明。死亡
- 11月 パラグライダー同士が接触し、墜落。76歳男性、経験21年。腰椎骨折／重症。50歳男性、経験18年。無傷
- 11月 樹上不時着後、自然落下。44歳女性、B級生、経験1年。腰椎骨折／重症

【モーターパラグライダー】

- 4月 スパイラル着水。41歳男性、経験18年。打撲／後遺障害
- 5月 湖上フライト中墜落。74歳男性、経験13年。溺死
- 5月 富士山5合目付近樹上不時

- 着。37歳男性、経験10年。足骨折／重症
- 7月 着水。65歳男性、経験8年。肋骨骨折／重症
- 9月 テイクオフ後、約5分旋回着水。71歳男性、JHF未登録のため経験など詳細不明。溺死
- 11月 強風時タッチ&ゴー失敗。近くの建物の壁に接触。68歳男性／本人無傷
- 12月 エンジン始動時にバランス崩し頭部損傷。73歳男性、JHF未登録のため経験など詳細不明。死亡

【ハンググライダー】

- 9月 ランディング直後に停車中の車に接触。52歳男性、経験28年。本人無傷
- 11月 ランディングアプローチ中電柱に接触し、落下。51歳男性、経験28年。頭部骨折／重症

死亡事故はパラグライダー3名、モーターパラグライダー3名。重大事故を無くすためにはどうすればいいのかを検討し続けてきましたが、あらためて様々な角度から対策を考えなければいけない状況です。

これまで報告された重大事故の多くは、防ぐことができたと思われます。2016年は水難事故が多く、また接触事故も多発しています。同じような事故を繰り返すことは絶対に避けねばなりません。

事故の報道によって、楽しいはずのスカイスポーツに、危険度の高いものというイメージが社会一般に定着しつつあり、フライヤー人口減少にますます拍車がかかる危惧があります。若者がスカイスポーツを始めようと思っても家族に止められるというケースも出ています。しかし、欧州でのパラグライダー人口は若者も含めて増加しており、日本とは反対の傾向にあるのです。

スカイスポーツを行っている以上、墜落のリスクは誰もが持っています。なかには「不運」としか思えない状況で起きた事故もありますが、「防げるはずの事故」が絶えないのは、とても残念なことです。考えられる範囲すべ

ての対策と心構えによって「防げるはずの事故」をゼロにする。それを可能にするために次の「安全意識8項目」を各自チェックしていただきたいとします。

安全意識8項目をチェックする

【項目1】

フライト経験年数の過信は禁物！事故報告のとおり、10年以上の経験を持つベテランと言われる方々にも事故は多発しています。常に初心の気持ちを持つことが重要。あなたは自分の技術レベルをどう思っていますか？

【項目2】

あなたの使っているパラグライダーは、あなたの技術レベルに本当に合っていますか？

万が一、70%の大きな片翼潰れが突然起きても冷静に対応できますか？これが冷静に対応できなければ、EN-Aクラスのパラグライダーを選ぶことが適切であり、楽しく飛び続けるためのポイントになります。EN-Bクラス以上では、瞬時に適切な判断をし操作する技能が必要です。

【項目3】

ご自分のハーネスの構造をよく理解していますか？

ベルトの調整、レスキューパラシュートの引き出し構造など。よくわからない方、インストラクターに任せているという方は、スクール生と同じです。

ハーネスのモデルによっては、ベルトが緩んだり、間違ったセッティングでも飛び続けたりします。しかしハーネスのセッティングが正しくできていない状態で、安全な飛び方、適切なグライダーコントロールは絶対にできません。ハーネスの構造がわからない方は、よく理解できるように、正しい知識を持っている方から学びましょう。

【項目4】

ブレイクコードの持ち方は大丈夫ですか？

正しい持ち方、ブレイクコードの長

さのことなど、よくわからないという方は、しっかりと学びましょう。本当の基本です。

【項目 5】

水辺の近くで飛んでいる方は、万が一、誤って着水するとどうなるか、理解していますか？

ほとんどの場合、溺死します。万が一に備える道具や装備は数千円からの予算で入手することが可能です。「自分の身は自分で守る」という考えが最も重要です。

【項目 6】

他機と飛ぶとき、適切なフライトプランを瞬時に立てることができますか？

他機がいっぱい飛んでいる空域へあなたが飛んでいった場合、同じ空域でソアリングする場合、周囲には初心者からベテランまで飛んでいることを忘れないでください。ルールを全く知らない方、スピードが全く異なるハンググライダーなどと一緒に飛ぶこともあります。どんな場合でもしっかりと適切なフライトプランを瞬時に立てることができないのであれば、絶対にこういった空域を、通過するだけでも、飛

んではいけません。周囲を常に確認し常に大きな距離を確保することが重要です。自分の技術レベルを超すような環境では絶対に飛んではいけません。フライトのタイミングをずらすとか、フライトをキャンセルするとか、「またの時に安全に楽しく飛ぶ」ことが重要な判断の一つとなります。

【項目 7】

あなたは事故報告の大切さを知っていますか？

事故情報は最も大切なことです。怪我をしなければ事故ではないという間違った認識を持つ方がいます。日本では、衝突や墜落など、こういった状況は誰にも知られたくないと隠す傾向にあるようです。JHFでは事故報告を受けて対策を考え、全国のフライヤーへ同じような事故を繰り返さないように事故情報を公表しています。決して事故を起こしたスクール、クラブ、エリアへ責任を負わせるためのことではなく、個人情報、通報者を知らせることもありません。小さな事故でもJHF事務局まで報告をいただければ、今後の対策に大きく役立ちます。すべてのJHFフライヤー会員にお願いします。見たこと思ったことは、事務局にお気

軽にお伝えください。必ず、安全面に役立つように対策をとっていきます。

【項目 8】

パイロット技能証を持っていれば特に学ぶことはないと思っていますか？

私はパイロット証を持っています、スクール生ではありません、特に学ぶところありませんという方は、ぜひJHFパイロット安全セミナーにご参加ください。最新の安全対策、考え方、飛び方などをお伝えしています。今年も3月以降に全国で開催され、自由に参加できます。各インストラクターはスクーリングをはじめエリア管理等に忙しく、一般パイロット向けに対するセミナー開催が難しいことが現状です。例えば悪天候時なら対応してもらえと思いますが、天気が良ければフライト重視になります。そこで、JHFはパイロット安全セミナーを正会員（都道府県連盟）主催等で行っています。人数が集まれば、クラブ、各地域へ講師が訪問することもあります。ホームエリアでのセミナー開催がない、あっても参加できなかったという方、ご参加をお勧めします。モーターパラグライダーのフライヤーの方々も気軽に参加することができます。

MPG重大事故発生 台上でエンジンをかけない／かけたら離れない

昨年12月、モーターパラグライダー（MPG）パワーユニットのエンジンを始動する際に、パイロットが頭部を損傷し死亡する事故が発生しました。

台の上にパワーユニットを置いたままエンジンを始動、エンジンの推力または振動によってユニットがバランスを崩し、プロペラがパイロットの頭部に当たったと見られます。

同様の重大事故が一昨年にも発生しており、JHF安全性委員会・補助動力委員会は、JHFウェブサイト「MPG取り扱いについて」という注意喚起文を掲載し、「台上でのエンジン始動を推奨しない」としました。

パワーユニットは軽量化したとはいえ、地面に置いた状態から背負って立ち上がるのは、かなりたいへんです。そこで、少しでも腰などの負担を減らそうと、ユニットを台に載せるパイ

ロットがいるわけですが、何よりも安全を重視し、いつでもエンジン始動は平坦な地面にユニットを置いて行ってください。

エンジンの調子を見るときや暖気運転のときも例外ではありません。

また、エンジンを始動したら、絶対にその場を離れないようにしてください。エンジンの振動などによってユニットが動いて倒れることもあります。実際、エンジンを始動した状態でパイロットが離れ、その間にバランスを崩し台上から落ちそうになったユニットを押さえようとした人が大怪我をしたという事故例があります。

エンジンを始動したら離れない。責任を持って自分のパワーユニットを管理する。これはMPGパイロットの鉄則です。飛行中だけでなく、地上でも自他の安全を確保することを優先して

ください。MPG事故を繰り返さないために、パイロットの皆さん、周囲の皆さんのご協力をお願いします。



エンジン始動後は絶対にその場を離れず安全を確保。

JHFの動き

HG&PGの魅力に触れてもらう 体験イベントを後援しました

スカイスポーツの魅力を一人でも多くの人に知ってもらおうと、JHFは下記のイベントを後援／デモフライトを実施しました。

●10月15日（土）

千葉県立幕張海浜公園でのスポーツフェスタにて、ハンググライダー体験会を実施。

●10月23日（日）

埼玉県熊谷市妻沼滑空場での埼玉スカイスポーツフェスタにて、パラグ

ライダー・ハンググライダーの体験会、デモフライトを実施。

●11月6日（日）

東京臨海広域防災公園（そなエリア）ちびっこパークにて、ハンググライダー体験会を実施。

●11月22日（火）

福島スカイパークで来年開催のスカイスポーツイベントにてハンググライダー体験会の実施を計画しており、イベント実証テストをしました。

JHF教員検定員を募集

3月に研修検定会を開催します

JHF教員検定員制度は、以下の目的を達成するために設けられました。

- 1 全国各地で教員検定、助教員検定が受検できる環境づくり
- 2 全国各地で開催される教員、助教員の更新講習会、レスキューリバック認定証更新講習会、安全セミナー等の

講師を行う

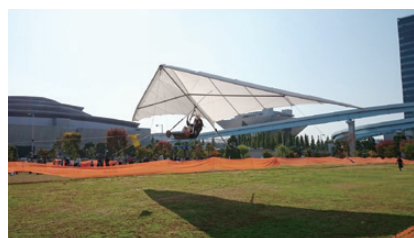
3 安全性委員会の事故調査員として事故調査を行う

この制度は、全国各地においてハンググライディング、パラグライディングの健全な発展と安全確保、技能レベルの標準化などのために、指導的役割を担っていただく方を認定する重要なものです。

現在、JHF教員検定員として活躍されている26名の方々の任期が2017年3月末に満了となるため、2017年度から3年間、教員検定員としてご協力いただける方を募集します。

応募された方には3月14日（火）～16日（木）の3日間、教員検定員研修検定会にご参加いただきます。応募には、住民票のある都道府県連盟の推薦が必要です。

詳細は都道府県連盟にお問い合わせください。



そなエリアでのハンググライダー体験会より。

JHF 型式登録機／機材情報登録機

フライヤー会員登録、技能証制度、機体登録制度が、JHF活動の根幹である三本柱です。この三本柱のひとつ、機体登録制度をより広く知っていただくために、新規登録機情報を掲載します。

現在、JHFでは二つの機体登録制度、「型式登録」と「機材情報登録」を運用しています。

日本のハンググライディング初期に始まった「型式登録」は、現在、JHF

安全性委員会が審査し判定しています。手続きが完了した機体に登録番号を付与、JHFが登録証明書を発行します。

また、2010年11月より「機材情報登録」を、より広い範囲の機体情報を提供するために追加運用しています。この「機材情報登録」は、輸入者／製造者／販売者が、販売機材を届け出て登録を行うことで責任の所在を明らかにし、JHFとして実態を掌握することを

目的としています。

1980年から現在までに登録されたハンググライダー・パラグライダーの情報は、JHFウェブサイト、安全性委員会のページの「型式登録・登録機リスト」に掲載していますのでご覧ください。また、同委員会ページの「セーフティノート」は機体・装備に関する安全情報です。こちらもぜひご確認ください。

機材 情報登録機						
登録番号	P-0125～0129	P-0130～0133	P-0134～0136	P-0137～0141	P-0142～0145	P-0146～0148
登録年月日	2016年11月25日	2016年11月25日	2016年11月25日	2016年11月25日	2016年11月25日	2016年11月25日
製造者	UP	UP	UP	Independence	Independence	Independence
製造国	ドイツ	ドイツ	ドイツ	ドイツ	ドイツ	ドイツ
型式	Makalu 4	Kibo	Lhotse	Pioneer	Geronimo 2	Sportster
認証	EN	EN	EN	EN	EN	EN
クラス	B	B	B	A	B	C
飛行総重量(kg)	55～130	68～130	60～120	60～135	55～120	70～125
輸入者名(販売者)	さんじゅう	さんじゅう	さんじゅう	さんじゅう	さんじゅう	さんじゅう
URL	www.sanjuu.com	www.sanjuu.com	www.sanjuu.com	www.sanjuu.com	www.sanjuu.com	www.sanjuu.com

無敵、板垣直樹六連覇！

11月3日-6日 茨城県石岡市 足尾山ハンググライダーエリア 報告：競技委員長 大澤 豊

クラスVの日本選手権は2014年から3年連続で茨城県足尾エリアでの開催となる。

2016年の秋は台風や秋雨前線の影響で足尾エリアらしいコンディションにならず飛ばない日が多く、また飛べてもサーマルの弱い渋いコンディションの日が多かった。

足尾エリアの大会では9月のEJC（ハングシリーズ）・10月のスカイグランプリ（パラJリーグ）といずれも悪天候で1本のみのフライトとなり競技不成立となってしまった。

今大会は晴天の4日間となったがサーマルの弱い渋いコンディションでの競技となった。

■11月3日

競技初日のタスクは、足尾TO→雨引鉄塔2Km→きのこ山→富谷山→日光足尾駅51Km→桜川ゴールの58km

今回の日本選手権もクラスI選手とともに競技するスタイルを採った。テ

イクオフオープン後なかなかソアラブルにならず、テイクオフしない選手達の中で、クラスIの砂間選手がトップに飛び出し競技が始まった。

板垣や塩野が続き、渋いながらも高度を稼ぐ。しかし後に続く選手が全員上がる条件にならず、42人中わずか14人しかスタートできなかった。板垣が17kmを飛んでトップになるが、後半、気温が上がってウェーブコンディションになり、リフライトの田中が22kmを飛んでこの日のトップとなった。

この日、ミニマム距離を越えたのは10人のみだった。

■11月4日

続く2日目のタスクは、足尾TO→雨引鉄塔3km→イーアス筑波18Km→益子駅1Km→宇都宮管制13Km→桜川ゴールの49km

この日も逆転層の影響で渋く、ポツポツと飛び出す選手がようやく上がり始める。それをみて飛んだ選手達の大

半は上がらずランディングしてしまう。

競技は、板垣がトップで動き出しレースが始まった。スタート後、南のターンポイントを取るが高く上らず、次がヘッドウインドになり、折り返して前に進めた選手が4人しかいなかった。

トップは板垣。砂間、塩野が続いた。この日ミニマムを越えた選手は15人。

■11月5日

3日目のタスクは、足尾TO→烏山ゴールの43km

テイクオフオープン後に出発する選手の中でトップに飛び出したのは、砂間選手だった。

3日目でやっと東風が入り、数人が東にテイクオフするも上らず、テイクオフは西風となった。西でも数人が上がり10kmを越えたのは7人で、ミニマムを越えた選手は11人のみ。果敢に飛び立った砂間がただ一人20kmを越えトップとなった。



激渋の条件下も忍耐強く切り抜けた塩野正光。撮影：杉山祥一（すべて）



クラスV競技の先頭を走り続ける板垣直樹、西テイクオフに立つ。



世界選手権者Tim。好条件下で世界一の飛行を見たかったが。



左から塩野、板垣、砂間選手。



六連覇を成し遂げた板垣直樹を中心に選手・役員。

■11月6日

最終日は、足尾TO→逆井城跡
3Km→関城ゴールの39km

弱い冬型となり寒気も入り気温減率は良くなってきた。サーマルもこの時期としては良いがオーバーキャストになる中、地元の柳田（クラスI）がトップに飛び出して上げ始めた。後に続く選手は更に濃くなった雲の下で苦戦を強いられ、生き残ったのは板垣と塩野、2選手のみ。

晴れている空域の西側で良いサーマルに入り、足尾で1200m、筑波で1600mの好条件でレースを開始したのは、柳田、板垣、塩野の3人だけだった。

好条件の西の平野で、板垣は雲の下をジグザグに高度を落とさない飛び。塩野は良い雲だけを狙い真っ直ぐに飛びグライド速度を上げる作戦で、筑波からはバラバラに飛ぶが、板垣のドルフィン航法が塩野に5分の差をつけてトップゴール！

板垣・塩野に50分以上遅れるが柳田も続き、3人が今大会初のゴール者となった。柳田はハングを始めて3年目の新人だが、積極的に一番にテイクオフし結果を残した。最終日にミニマム距離を越えた選手は8人だった。

今回はClass V 世界選手権者のTimや韓国からの選手も参加して盛り上がったが、大会史上稀にみる激湊の気象条件下での競技となった。

そんな中でも、唯一のClass V 日本選手権者として板垣は自信をもって自身のフライトを貫き、4日間安定した強さで6連覇を達成した。

成績

[クラスV]

1位	板垣	直樹	茨城	397点
2位	塩野	正光	栃木	367点
3位	山本	剛	神奈川	265点
4位	穴戸	俊之	茨城	262点
5位	星	一彦	千葉	234点
6位	岡田	伸弘	静岡	232点

[クラスI]

1位	砂間	隆司	鳥取	318点
2位	柳田	崇	茨城	279点
3位	内藤	崇裕	静岡	246点
4位	外村	仁克	和歌山	243点
5位	大沼	浩	茨城	235点
6位	鈴木	由路	東京	221点

日本選手権者から

□板垣直樹

2016年はマケドニアでClass V の世

界選手権がありました。私は真剣に優勝を狙っていましたが、結果は残念ながら表彰台にも上がれない6位と惨敗。しかし安全な好条件の中で良い緊張感をもった素晴らしい経験をする事ができました。Class V の機体は滑空性能の向上が目覚ましく、空域は更に広がり、飛び方も日々変わっていく中、多くのご支援や理解をいただいて世界選手権に参加して得たことは大きな財産となっています。

その4ヶ月後に世界チャンピオンのTim Grabowskiを招いてのClass V 日本選手権で六連覇できたことは大きな喜びです。

今回の大会参加者はClass I を含め過去最高の46人。この渋い条件下で勝つためには運も大きな要因になりますが、勝ちを意識せず楽しんでフライトできたことが運を呼び込む結果となったと思っています。

今後も積極的に競技に参加し、自分のために、そしてこのスポーツのために多くの選手と共に素晴らしい経験を共有したいと思います。

日本選手権の運営に携わってくださった人たちと参加してくれた選手に心より感謝し御礼を申し上げます。

2016年パラグライダー日本選手権 in 吉野川

岩崎拓夫・平木啓子、日本一の座を獲得。

11月3日-6日 徳島県三好郡 吉野川エリア 報告：実行委員長 椋本 清治

この吉野川エリアでの日本選手権開催は2回目になります（1987年のハングも入れると3回目）。

前回は7年前の2009年5月に行われました。その後のJリーグも5月を基本に実施してきましたが、今回は11月と秋に変わっています。秋の条件がどの様になるのか心配していましたが、競技が行われた2日とも大量にゴール者が出る楽しい大会となりました。今年の日本選手権者は、総合には岩崎選

手が、女子には平木選手がそれぞれなりました（平木さんは2009年の女子日本選手権者）。

【第1日目】11月3日（不成立）

大会長である東みよし町長のお話で始まり、四国電力様からの安全講習の後、やる気満々でテイクオフに上がるも風が強く競技は中止となりました。

夜にはウエルカムパーティーがひらかれ、阿波踊りや恒例のビンゴゲームが行われ楽しい宴となりました。パーティーは日本選手権ということで、いつもより料理もお酒もレベルアップしました。多すぎて余った料理をパック詰めにして持ち帰る選手や、酒瓶を小脇に抱えて帰る人までいて、宿泊所であった東部福祉センターではその後も宴は続いたようです。

【第2日目】11月4日（成立）

◆タスク：レース 50.4Km



選手ブリーフィング。どんなタスクになるのか…。



韓国から参加したキム選手。静かに準備を整える。



初日の夜は阿波踊りで大いに盛り上がった。



上空では全選手がスタート待ち。誰が先頭を切るか？



11月4日のタスク1、ゴールを決めた選手たち。

T01水の丸→T01 (SS EXIT 2km)
→A26もみじ上 (1km)→A16田尾
(5.7km)→T03三三 (5km)→A16田
尾 (7.5km)→L01ぶぶる (ESS 1km)
→L01ぶぶる (400m)

朝から快晴でしたが、サーマルト
ップ1300から1500mで、全選手がテイク
オフ上空でスタート待ちの状態。ス
タートと同時に対岸に渡り吉野川北岸
を東西に往復しメイン会場へ帰って
くる約50kmのタスクで競技が行われま
した。サーマルトップが低いなか、ト
ップゴールの岩崎選手に続き80%以上の
選手がゴールしました。

地元、徳島新聞の記者はガーグルに
興奮しカメラのシャッターを切ってい
ました (サーマルトップが低く写真に
はよかった)。翌日には「TPP」の記
事に並んで新聞の第一面に大会の記事
が掲載されました。

【第3日目】11月5日 (成立)

◆タスク: Elapsed 38.7Km

T01水の丸→T01水の丸 (SS EXIT
2km)→G10市場 (21km)→G08池田
(17km)→G10市場 (ES 2km)→G10
市場 (1km)

今日も秋晴れ、朝から選手も気合が
入っています。早々にテイクオフに上
がりました。

暫定タスクを設定し競技開始を待つ
ことに。ダミーがテイクオフするが上
りが悪く、タスクを修正した後、遅め
の開始となりました。

テイクオフした選手はガーグルを作
り条件が良くなるのを待っています。
予報は昨日と同じくサーマルトップが

1200mぐらい。(新聞報道の影響でア
マチュア写真家が来ていたが満足して
いただけたようです。)

条件も次第に良くなり北岸に渡り始
める。時間と共にサーマルトップも高
くなり結局32名がゴールしました。

また、レスキューパラを開いた選手
がいたが、無線のコードが切れ連絡が
取れずにいました。その上空にいた寺
尾選手から無線で座標を連絡してい
たきました。なお、寺尾選手は競技を
キャンセルし近くに着陸、そして救助
に向かってくれました。ありがとうございました。

【第4日目】11月6日 (不成立)

テイクオフに上がった時はまだ視界
が良かったので最初のダミーが出る
が、その後テイクオフは雲の中とな
りました。しばらく待ったものの回復の
兆しがなく競技キャンセル。13:00か
ら閉会式となり、今年の日本選手権は
終了となりました。



日本選手権を手にした岩崎、平木両選手。



総合6位までの入賞者。



スポーツクラス総合入賞者。高田選手がトップに。

成績

〔総合〕

1位	岩崎 拓夫	京 都	1944点
2位	廣川 靖晃	静 岡	1894点
3位	上山 太郎	大 阪	1877点
4位	呉本 圭樹	東 京	1862点
5位	青木 翼	静 岡	1860点
6位	平木 啓子	静 岡	1818点

〔女子総合〕

1位	平木 啓子	静 岡	1818点
2位	山下 敦子	兵 庫	1700点
3位	高田 奈緒	東 京	1640点

〔スポーツクラス総合〕

1位	高田 奈緒	東 京	1640点
2位	村田 好彦	埼 玉	1508点
3位	田中 健	滋 賀	1503点
4位	中目みどり	東 京	1473点
5位	Thomas Belz	スイス	1452点
6位	氏田 敏彦	神奈川	1448点

〔スポーツクラス女子〕

1位	高田 奈緒	東 京	1640点
2位	中目みどり	東 京	1473点
3位	高橋 美佳	埼 玉	991点

日本選手権者から

□岩崎 拓夫

素晴らしい四国吉野川エリアで日本
選手権者になったことに本当に嬉しく
思います。実は、昨年も優勝している
エリアなので相性は抜群でした。

Task1は、往復タスクであったので、
最初のレグでファイナルグライドを想
定しながら飛びました。常に有利な状
況ではありませんでしたが、勝てる状



総合女子トップ3。



スポーツクラス女子トップ3。

況になるのを待ってから勝負したことで、トップゴールできたのだと思っています。

Task2では、優勝を意識するあまり、熱い思いが頭の中を駆け巡りました。それでも「焦らず自分自身であること」を繰り返し自問自答することで、ぐっと冷静になりました。

気が付けば、「とにかく勝ちたいという思い」は消えて、「悠々とファイナルグライドしている姿」が浮かんでいました。そして、イメージ通りの優位なポジションでゴール。冷静さを保ったことで、飛びに集中でき、掴み取った勝利だと思います。

今後の目標としては、世界で活躍できる選手になること。その実現のために、レベルの高い大会に出て経験を積んでいきたいと考えています。

最後になりましたが、多くの刺激を与えてくれた周りの方々、大会関係者の方々、サポートしていただいているロールアウトにこの場を借りて感謝をお伝えします。本当にありがとうございます。



選手権者を囲んで選手も役員も集合！ おつかれさま。

□平木 啓子

2010年5月に開催されたアジア選手権以来、6年ぶりにここ吉野川エリアの大会に参戦しました。

久しぶりの吉野川でのフライトです。雄大な景色を堪能しつつも、飛びながら過去の記憶を呼び戻し、前に行く選手たちを参考にし、良いポジション取りを心がけ飛びました。結果、総合6位入賞、女子では優勝することができました。年々実力をつけた女子が台頭してくる中、女子選手権者の座を守れた事は、大変嬉しく思います。

ただ、総合でもっと上位に食い込めるチャンスが何度かあったのに活かすことができず、とても反省しています。それが冒険なのか好機なのか、判断できる目を養い、更なる上を目指そうと気持ちを引き締めました。

これからも応援してくださっている皆様に応えられるよう益々頑張っていきたいと思います。

最後に、大会を運営してくださいました皆様、お手伝いくださいました皆様、素晴らしい大会をありがとうございました。

第10回パラグライディングアキュラシー日本選手権 in 九十九里 塚原隆信、再び頂点に立つ。

10月15日・16日 千葉県山武市 本須賀海水浴場 報告：競技委員長 山谷 武繁

10月15日・16日、千葉県九十九里海岸の本須賀海水浴場にて第10回パラグライディングアキュラシー日本選手権が開催された。

通常、山など高度差のあるところからフライトするパラグライダーだが、今大会は海水浴場での競技ということで、トーイングによってフライトを



海岸からトーイングで離陸。



安定した海風のなか9ラウンドが成立した！

行った。トーイングとは、ワイヤーをウィンチで巻き取ることにより高度を獲得する方法で、海外では1000mの高度を獲得し、クロスカントリーやSIV（マヌーバー）トレーニングなどが行われている。ハーネスに取り付けたリリースによって、パイロットはワイヤーを簡単に切り離すことができる。アキュラシー競技では高い高度を必要としないので、今大会では約100mの高度差を上昇し競技が行われた。

今回の参加選手は15名と日本選手権としてはさびしい選手数となったが、前回世界選手権6位で日本選手権三連覇を狙う吉富選手、ランキング1位の岡選手、第5回大会日本チャンピオンの塚原選手など好スコアを期待できるメンバーが集まった。



パッドスコア続出。高レベルの競技が展開された。

10月15日 ラウンド1-5

ラウンド1は岡選手が2cmとラウンドトップで好スタートをするが、塚原選手、松原選手、大野選手が3cmをたたき出し最少得点差で続いた。日本選手権三連覇を狙う吉富選手は23cmと出遅れた。

続くラウンド2、3は塚原選手が3cm、3cmと安定感を見せつけ首位。元世界選手権日本代表の菊田選手が2cmを立て続けに出し2位に浮上。

競技初日はラウンド5まで終了し、

その後崩れることのなかった塚原選手が合計9cmと素晴らしいスコアで首位を守った。2位には菊田選手が15cm、3位に岡選手が24cmと続いた。

10月16日 ラウンド6-9

競技2日目はラウンド6からスタート。塚原選手はその後も崩れることなく、全9ラウンドをパッドスコアを出し続け、最終成績は26cmで2度目の優勝を飾った。平均3.25cmは、世界でも上位に入賞できるハイスコアでの優

勝だった。第2位はラウンド4での1000点のミスをもっと最小限に食い止め、パッドスコアを続けた菊田選手が合計43cmで続いた。第3位は常連の岡選手が後半の挽回で合計46cmと、2位に3cmまで迫った。

今大会では安定した海風という絶好のコンディションの中、全ラウンドの約半分がパッドスコア（16cm以内）と高いレベルの競技が続いた。最終ラウンドは15人中12名がパッドスコアという、選手のレベルアップが感じられる結果となった。

成績

[スクラッチクラス]

1位	塚原 隆信	茨 城	26
2位	菊田 高司	埼 玉	43
3位	岡 芳樹	東 京	46
4位	松原 正幸	神奈川	92
5位	伊藤まり子	愛 知	123
6位	古田 岳史	埼 玉	129

[ハンディキャップクラス]

1位	松原 正幸	神奈川	1
2位	菊田 高司	埼 玉	5
3位	塚原 隆信	茨 城	9



ハンディキャップクラスのトップ3。



チーム戦では「のびのび」が見事1位に。



スクラッチクラス入賞者。後列中央が塚原選手。



選手も役員も無事終了おめでとう。2017年はあなたもぜひ参加を。

[チーム]

- 1位 のびのび
- 2位 スカイ朝霧
- 3位 飛魔人くらぶ

日本選手権者から

□塚原隆信

日本選手権者になったのは2回目ですが、ここ1、2年優勝は無く成績も今ひとつなものでした。久しぶりの優勝が日本選手権ということで、とても嬉しく思っています。

今回成立したのが9ラウンドと日本

選手権としては最大のラウンド数、そして私の成績は全パッドランで9本のトータルが何と38cm、自分でもびっくりするようなものでした。

このような成績が残せたのは、ひとつは今回パラグライダーを変更したことです。スターティングウエイト上限いっぱいXSサイズから3kgウエイトを増やしSサイズにしたことで、巡航スピード、失速スピードが遅くなり余裕ができたことです。

変更当初は、サイズが大きくなり動きが悪くなるのではと思いましたが、

動きはとても良くハンドリングには何も問題はありませんでした。アキュラシー競技をやる上で自分に合ったとてもよいパラグライダーに巡り会ったと感じました。

それともうひとつ、海風が強く吹き、私が大好きなコンディションだったこともあります。

今後の目的としては、日本選手権連覇はもちろん、今までなかったことのないアキュラシーリーグ年間総合1位です。目的を達成するよう練習に頑張りたいと思います。

ハンググライディングシリーズ／パラグライディングジャパンリーグ 2016年ランキング王者決定！

リーグ戦を勝ち抜いたパイロットたち／2016年の競技を振り返って

12月31日で2016年競技シーズンが終わり、ハンググライディング、パラグライディング、それぞれのリーグ戦のランキングが決まりました。年間チャンピオンとなった皆さん、おめでとうございます。また、大会の企画運営にあたられた皆さん、お疲れさまでした。

1月1日から2017年競技シーズンがスタート。1年後、このページに載るパイロットは？

ハンググライディングシリーズ

[総合]

- | | | | |
|----|-------|-----|------|
| 1位 | 大門 浩二 | 茨 城 | 3872 |
| 2位 | 鈴木 博司 | 岐 阜 | 3793 |
| 3位 | 田中 元気 | 東 京 | 3637 |
| 4位 | 鈴木 由路 | 東 京 | 3629 |
| 5位 | 太田 昇吾 | 茨 城 | 3455 |
| 6位 | 砂間 隆司 | 鳥 取 | 3449 |

[女子]

- | | | | |
|----|-------|-----|------|
| 1位 | 野尻 知里 | 茨 城 | 2751 |
| 2位 | 鈴木 皓子 | 大 阪 | 1753 |
| 3位 | 磯本 容子 | 和歌山 | 1664 |

[世界選抜総合]

- | | | | |
|----|-------|-----|--------|
| 1位 | 大門 浩二 | 茨 城 | 274.46 |
| 2位 | 田中 元気 | 東 京 | 269.43 |
| 3位 | 鈴木 博司 | 岐 阜 | 266.64 |
| 4位 | 砂間 隆司 | 鳥 取 | 257.72 |
| 5位 | 板垣 直樹 | 茨 城 | 253.32 |
| 6位 | 加藤 実 | 愛 知 | 250.77 |

[世界選抜女子]

- | | | | |
|----|-------|-----|--------|
| 1位 | 野尻 知里 | 茨 城 | 154.70 |
| 2位 | 鈴木 皓子 | 大 阪 | 125.68 |
| 3位 | 磯本 容子 | 和歌山 | 123.02 |



総合 1位

大門 浩二

2016年も、HGシリーズ1位、日本選手権優勝、日本代表ランキング1位と3冠を獲得できたことをたいへん嬉しく思います。

2017年のブラジルでの世界選手権に向けて少しずつですが準備をしてきた成果だと思いますが、さらに突き詰めて練習、準備、環境を整えて世界選手権に臨みます。おそらく、この世界選手権が自分にとって最後の本気モードになると思うので、悔いのないように頑張ります。

基本、ハング、パラグライダーは趣味、遊びの世界だと思うので、安全に楽しく飛べればよいのですが、競技スポーツとしてとらえて結果を望むのであれば、もっともっと努力と練習が必要だと思います。さらにそのための環境づくりがとても重要になるので、個人、連盟ともによりよい環境と意識が大切だと思います。個人的にはまだまだ自分のことで精いっぱいですが、近い将来、日本選手が世界選手権の表彰台の真ん中で日の丸を上げることを夢見ています。



女子 1位

野尻 知里

2016年は西富士、池田山の成績が良

く、再び女子1位に返り咲きました。ホームに弱いのは集団をスルーしてしまうからでしょうか。まだまだ拙いですが、最近、より良い集団で飛ぶことの重要さを感じています。ただついでに行くのではなく、集団に属することにより良いリフト、より良いグライドラインを知覚することができるように思います。集団に貢献し、集団に救われ、ゴールまで焦らず着実に進むことが目標です。

大会は速さを競ってはいませんが、ひとりではたどり着けない場所まで皆と一緒に飛んで行けるのも醍醐味のひとつです。いつものエリアはさらに広がり、他エリアで飛ぶこともできます。昨年はイタリア、コロンビア、韓国、ドイツから選手が参加し、日本の大会も国際的になってきました。ハングはバラよりも海外遠征のハードルが高いですが、それも大会が後押ししてくれる部分もあります。見知らぬ空を、まだ見たことのない風景を、翼を持つ仲間とともに遊ぶ。大会はその入り口に過ぎません。

私自身、大学2年の秋に初飛び、本格的に大会に出始めたのは社会人になり転職してからです。ツノ無しに乗り換えたのも大会に出るようになってから。ツノの有無にかかわらず、周りを見る余裕とランディング技術があれば大丈夫です。

2017年シーズン、皆さんの参戦をお待ちしています。

2017年はブラジルでのClass Iの世界選手権開催の年となる。

選抜選手の選考はブレ世界選手権の日本人最上位者1名と前年の国内ランキングトップ1名、残るチーム枠に世界選手権選抜ランキングの上位者から選出される。

日本代表チームの一番に名乗りを上げるのは選抜ランキング1位、ブレ世界選でも日本人最上位の大門浩二、続く選手は田中元気、鈴木博司となり、国内ランキングの繰り上げで鈴木由路が入り、砂間隆司、板垣、加藤、氏家と続く。

現在はまだチームの人数が正式に

発表されていないので何人のチームになるのかわからないが、やはり常連選手の安定した強さが目立つ。

また国内ランキングを見てもベテラン勢と中堅選手の層の厚さと安定した強さばかりが目立った。

特にランキング3年連続の大門の強さはもはや言うに及ばないが、中堅選手の中で田中がこ一番で強さを発揮し上位の常連となったことは、同世代や若手の良い目標になった。

2015年に比べ変化が少ないが、若手では20代前半の名草がBシードに唯一入り、Cシードには小堀・大陽・馬場・箕谷の4選手も入っているの

は将来に繋がり頼もしい限りだ。

女子では野尻がトップで全体の20位に食い込み2位以下を大きく引き離した。女子選手は少ない上位に食い込める様に頑張ってもらいたい。

ハングの魅力は競技だけではないが競技を通じ技術の向上や新しい知識の習得につながる。

年々、日本の競技レベルは世界のトップレベルに近づいている。

今年もさらに楽しく安全にハイレベルな競技を目指しますので、参加くださる皆さん、競技を行わない皆さんも今年もご支援とご協力をよろしくお願いします。

パラグライディング ジャパンリーグ

[オープンクラス総合]

1位	廣川 靖晃	静岡	5164.3
2位	上山 太郎	大阪	5140.9
3位	岩崎 拓夫	京都	5067.0
4位	成山 基義	大阪	5010.3
5位	稲見 祐二	愛媛	4912.9
6位	平木 啓子	静岡	4787.1

[オープンクラス女子]

1位	平木 啓子	静岡	4787.1
2位	山下 敦子	兵庫	4546.2
3位	中目みどり	東京	3976.4

[スポーツクラス総合]

1位	田中 健	滋賀	4344.4
2位	中目みどり	東京	3976.4
3位	山下 敦子	兵庫	3964.9
4位	氏田 敏彦	神奈川	3928.7
5位	村田 好彦	埼玉	3704.3
6位	入山 朋一	兵庫	3633.5

[スポーツクラス女子]

1位	中目みどり	東京	3976.4
2位	山下 敦子	兵庫	3964.9
3位	高田 奈緒	東京	3416.7

[国際選抜]

1位	上山 太郎	大阪	275.7
2位	呉本 圭樹	東京	257.5
3位	岩崎 拓夫	京都	255.8
4位	廣川 靖晃	静岡	254.0
5位	成山 基義	大阪	232.1
6位	中川 喜昭	茨城	217.8

[J2リーグ総合]

1位	橋本 耕一	埼玉	1980
----	-------	----	------

2位	今中 正	栃木	1923
3位	山田 裕一	神奈川	1851

1位	田村 康子	神奈川	1549
2位	橋本 泉	埼玉	734
3位	富永あゆみ	大阪	463

[J2リーグチーム]			
1位	飛魔人くらぶ		6
2位	丹沢SC		5
3位	スカイ朝霧		4



オープンクラス
総合1位 廣川 靖晃

2016年は初めてJリーグランキング1位になることができました。

私事ですが昨年は子供も産まれて、パラグライダーでは日本一になることができ、私にとって最高の一年になりました。

ワールドカップ、Jリーグ各大会を通して、産まれたばかりの子供を連れていつも一緒に来てサポートしてくれた家内への感謝の気持ちで一杯です。

1月にメキシコで行われたワールドカップスーパーファイナルの2日目に失敗して降りてしまってから、自分の意思で飛ぶのをぐっとこらえて、とにかくトップグループに食らいついて行くように飛び方を変えてから、安定して成績を出すことができるようになって来ました。

帰国後はとにかくトップグループに

ついて飛べるように、基礎練習をメインにグライディングとセントリングの精度を上げるように練習しました。その後は紀ノ川で4位、獅子吼で2位、朝霧で2位、海外でもレユニオンPWCで10位、インドネシアPrePWC 2位と、安定して飛ぶことができ、年間ランキング1位に繋げることができました。

ただ、一度も大会優勝ができていないので、2017年は各大会の優勝、そして、夢の世界チャンピオンに向けて頑張っていきたいと思っています。



オープンクラス
女子1位 平木 啓子

2016年は、ジャパンリーグに参戦する大切さを痛感した年でした。世界で戦い実力をつけなければ、世界で勝つことはできません。でもその前に日本で勝たなければ、世界で勝てるわけがありません。そんなあたりまえのこと、気付くのがちょっと遅すぎたのですが、昨年は躍起になってジャパンリーグに参加し、リーグ女子1位をなんとか獲ることができました。勝ち上がるのは容易なことではなかったのでも嬉しいですよ。

Jリーグの大会は、年々レベルが上がってきており面白くなっています。今年も意欲的にJリーグ大会に参加し、連覇を目指して頑張りたいと思います。



スポーツクラス 総合 1 位 田中 健

2016年は後半になるほど上り調子で良い感じに飛べるようになってきました。2014年に一度スポーツクラスで優勝でしたが、2015年は少しスランプになってしまい、3位以内にも入れず悔しい思いでしたので、2016年は気持ちを入れ直し、「優勝するぞ!」と常に考えてフライトしました。おかげでゴール者のいる大会ではほとんどゴールすることができました。

2016年は週末の天気が悪い日が多くてあまり飛べない日も多かったのですが、幸い大会は成立することが多くて良かったです。同クラスには強力なライバルが多く、運も手伝えることにはなりましたが、再び1位に返り咲くことができて非常に嬉しいです。

今年は九州伐株山でのJリーグ開催も決まっているようですので、大変楽しみにしています。2016年はJリーグ総合では12位でしたが、今年は更なるランクアップを目指して頑張っていきます。

大会を開催してくださるエリアやスタッフの皆様は大変ご苦労が多いと思いますが、今年も是非よろしくお願いします。

選手の皆も今年も楽しく安全に飛ばうぜ!

でも負けへんからな! (笑)



スポーツクラス 女子 1 位 中目みどり

尾神・獅子吼は実力以上の気持ちいいレースができたものの、後半が続かず、変わらず「やりきった!」感の持てないシーズンでした。

2015年女子・スポーツ表彰をさらった高田選手が怪我に泣き、2016年シーズンスポーツクラスでかつ飛ばしていた山下選手が後半オープンに転向したため転がり込んできた「ごっちゃんゴール」感が否めません…。

波があり過ぎるのが永遠の課題なので、今年こそは「気持ちのいいレース」を集めて、がっつりゴールを決めたいと思います。

スポーツ女子表彰不要論が囁かれるほど女性陣が元気なのは嬉しい限り!

しかし、スポーツ女子表彰不要はオープン女子が1人しかいない大会ばかりだからであって、スポーツクラス表彰を女子が占めるからではないと思うのですが(笑)。今後上位を目指してオープンクラスに転向する女性も増えるかもしれないですし「オープン女子が3人以上いる場合はスポーツ女子も表彰」等にしてはどうでしょう?

ともあれスポーツ女子の皆さん、今年も遠慮なくスポーツ表彰台を荒らしまくりましょう!

最後になりましたが、大会開催にご尽力いただいたエリアの皆様、競技委員会始め関係者の皆様、本当にありがとうございます。安全に楽しく飛ぶことでしか恩返しができませんが、2017年もよろしくお願い致します。



J2リーグ 総合 1 位 橋本 耕一

J2リーグは、いろいろな意味で大会入門編だと思います。

私の初めての大会は2013年の朝霧J2からでした。初めてづくしなのでタスクを入力するだけで悪戦苦闘。いつものフリーフライトとは違い、飛ぶ前からいっぱいいっぱい。フライト中は対地速度と現在高度しか見ていなかったGPSも、スタートまでの残り時間、次のウェイポイントの方向、そこまでの距離など、フライト中の確認作業が急に増え、前方確認不足で空中接触!になりそうだったこともありました。でも、コンペの難しさと楽しさを体感できて、パラグライダーがますます好きになる大会でした。

今回J2朝霧カップでは、初めてタスクコミッティーに選ばれ、「気象予報に応じた適切な飛行空域と、タスクを選び出す」任務を経験。初コンペの人も含め選手全員がレースを楽しめゴールできるタスクが望ましい。でもパンパンの朝霧が満喫できるタスクにもしたい。いろいろな思いが交錯するタスクミーティングは、これまでとは少し違った視点から参加しているようで新鮮でした。ありがとうございます。

今後もコンペを楽しみながら少しずつ成長できればと思っています。

J2リーグ、今年もみんなで楽しみましょう。



J2リーグ 女子 1 位 田村 康子

「J2女子1位」って、そもそも2016年のJ2成立は朝霧1戦だけだし、女子選手はたったの4人……

じゃあ嬉しくないかって言われたら、やっぱり嬉しい!!!

そうです、J2女子枠は、今ならかなりの高確率で表彰台に手が届くのです。表彰されるとモチベーションもあがって、今よりもっとパラが楽しくなります。女子パイロットの皆さん、2017年はぜひ一緒に。

パラグライディング アキュラシージャパンリーグ

[スクラッチクラス総合]

1 位	岡 芳樹	東 京	125.5
2 位	塚原 隆信	茨 城	116.7
3 位	古田 岳史	埼 玉	95.2
4 位	伊藤まり子	愛 知	85.9
5 位	和田 浩二	静 岡	80.5
6 位	小松 理樹	茨 城	76.7

[スクラッチクラス女子]

1 位	伊藤まり子	愛 知	85.9
2 位	山口 香代	東 京	31.5
3 位	菊田 久美	宮 城	11.7

[ハンディキャップクラス総合]

1 位	古田 岳史	埼 玉	99.0
2 位	塚原 隆信	茨 城	91.7
3 位	和田 浩二	静 岡	80.5
4 位	伊藤まり子	愛 知	75.4
5 位	山口 香代	東 京	67.9
6 位	平野 竜二	兵 庫	64.0

[ハンディキャップクラス女子]

1 位	伊藤まり子	愛 知	75.4
2 位	山口 香代	東 京	67.9
3 位	菊田 久美	宮 城	22.3

[チーム]

1 位	スカイ朝霧	28
2 位	大台	25
3 位	飛魔人くらぶ	15
3 位	のびのび	15



スクラッチクラス 総合 1 位 岡 芳樹

2015年に続き、リーグチャンピオンになりました。これは、フライト確率が高く、テイクオフへの移動が短時間

でき、テイクオフに車が横付けできるといった、アキュラシーにはすこぶる条件の良いエリア、スカイ朝霧がホームエリアであるおかげです。また、同じエリア内に、リーグ選手がほかに2人、たまに他のエリアからも条件が良いということで選手が練習に来ることもあり、お互いに切磋琢磨できる環境があることも見逃せません。ただ漫然と練習していても上手くはなりません、常に課題を意識して練習することで経験値が増え、引き出しが増え良い成績に繋がるのだと思います。

2018年にはインドネシアで開催されるアジア競技大会で、歴史上初となるスカイスports種目として、パラグライダー競技が実施されることが決まっている（現時点で100%、アキュラシー

であるとは言えないが、99%はアキュラシーであろう）ので、それに向かって練習を積み、代表選手として恥ずかしくない結果を出せるようにしたいと思っています。



**スクラッチクラス
女子1位 伊藤まり子**

2016年シーズンのAリーグ女子優勝の栄誉をいただきましたが、参加者が少ない寂しいAリーグで、素直に喜んで良いものか…

ただ、2016年はスクラッチクラスでも入賞することができて、自己最高の4位と言う結果が残せたことはとても嬉しく思います。

2018年に開催されるアジア競技大会

ではアキュラシーが正式種目となる予定で、2017年シーズンはその選考を兼ねたリーグになります。JOCから日本代表として派遣されるという夢に向かって、今シーズンはもう少し賑やかなAリーグになることを期待しています。

アジア競技大会に女子枠があるかどうかは分かりませんが、もしなくても、選考してもらえそうな成績を目指して…新しい相棒とともに、上達する楽しさと喜びを追い求めながら、もっともっと練習したいと思っています。

最後になりますが、一緒に楽しみながらいつも適切なアドバイスをしてくれるアキュラシー仲間と、ずっと無条件で応援してくれて、心の支えになっている友達に感謝します。

2016シーズンの競技を振り返って

パラグライディング競技委員長 岡 芳樹

Jリーグは7大会が開催され、5大会が成立（そのうち2本成立が4大会）、2大会は不成立（大会のポイントが計上されるDQが0.2以上のタスクが成立しない）となった。ポイントに計上できるDQが0.2以上のタスクは9本となり、年間ポイントランキングは4本の合計ポイントで決定された。全般的に天候不順となった割に、成立タスクが9本となり十分に実力を反映したものになってホッとしている。

またJリーグ初参加となる選手も入ってきているので、今後が楽しみと言える。できることならもっと若い選手が参戦してくれると頼ましい

のだが。残念ながら頭角を現しているのは2016年ランキング14位に食い込んだ荒井選手だけというのは、何とも寂しい。

今後は、新しい選手の発掘も兼ねて、新しいエリアでのJリーグ大会開催を模索してゆくことも考えてゆきたい。

J2リーグは例年通り、広島の新倉と静岡の朝霧の2大会のみであった。しかも神の新倉はコンディションが悪く不成立となってしまった。それでも朝霧は2日間とも絶好のコンディションに恵まれ、20kmと37kmのレースがDQ1で成立し参加した選手全員に喜んでもらえたのが救い

であった。

J2リーグは和やかな雰囲気、ストレス無く大会に参加できるので、Jリーグは敷居が高いと思っている選手には絶好のエントリー大会と言える。是非どんどん参加してくれることを期待している。それには、もっと大会を増やす必要があるのは重々承知しているところ。競技委員会としては、最も大会開催にハードルとなっている（と思われる）得点計算ができる競技委員をJHF予算で派遣することができるので、大会を開催してみようかと思われるエリア管理者の方は、ぜひPG競技委員会にご連絡をお願いします。

学連ニュース

今回はJHFからの補助金について、日本学生フライヤー連盟の近年の取り組みを紹介します。

JHFからの補助金、2014年度までは、学生大会の参加者を増やし大会を盛り上げることを目的として、B級生対象で学生大会のエントリー費の補助に使用していました。

そのおかげで、ハング・パラ共に参加者が増加しており、2013年度と2015年度の学生選手権を比較すると、20人強から40人弱まで増加しました。昨年

度、試験的に補助金をなくしても、各エリアで大会参加の楽しさが受け継がれているようで、参加者は依然として増加傾向にありました。

そこで今年度は、昨年度から検討されていた「遠征補助金システム」へ切り替えました。今度は地方での草大会や社会人大会へも参加する学生の増加を目指します。

本システムの狙いとしては、大会自体の盛り上げに加え、学生のうちから、様々なエリアに飛びに行ったり、社会人大会への参加をしたりすることで、

フライヤー同士の交友関係を広げるとともに、フライトエリアの認知や社会人フライヤーとの関わりを通して、卒業後も飛び続けられるイメージづくりをしたいと思っています。

補助金システムの詳細については、学生連盟ホームページを参照してください。新HPにはSNS連携もしてもらったので見ていただくと嬉しいです。
jsff.org

日本学生フライヤー連盟
理事長 中山拓哉

JHFからのお知らせ

■補助動力副読本を頒布しています

「JHFパラグライディング教本副読本[動力付きパラグライダー（補助動力技能証／MPG技能証課程）]」を頒布中。

動力を使用したパラグライディングの練習のポイントと最低限の基礎知識を載せており、パラグライディング教本とともに繰り返し読んで、安全で楽しいフライト活動の助けにしてください。初心者の方はもちろん、すでに技能証をお持ちの方も、ぜひお読みください。

価格・申込方法：

頒布価格1,000円（送料別）。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。注文書はJHFウェブサイト「書籍情報」からダウンロードできます。

■PG教本基礎技術DVDを頒布中です

基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」、続いて第2弾「テイクオフとランディング」を頒布しています。

「JHFパラグライディング教本基礎技術」には、JHF教本のA・B級からク

久米島でのフライトについて訂正

214号、215号で、久米島の航空自衛隊基地に新しいレーダーが設置されたことにより、久米島でパラグライダー、モーターパラグライダーで飛ぶときには事前に那覇航空局に申請し国交省から許可を得ることが必要となったこと、ビクターが久米島で飛ぶ場合は事前に申請し許可を持たないと航空法違反となることをお知らせしました。

連絡先に誤りがありましたので訂正します。

〔誤〕フライトの前には、那覇空港情報管制管（TEL：098-859-5132）に確認してください。

〔正〕フライトの前には、那覇空港航空管制運航情報官（TEL：098-859-5132）に確認してください。

なお、ご不明な場合は下記へご連絡ください。

ブルーフィールド久米島
TEL：09059225283
info@bluefield-kumejima.com

上空利用可能デジタル無線機使用のお勧め

平成34年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリアで聞き取りやすくなっています。これまでSTANDARD製のVX-291SとVXD450Sの2機種のみでしたが、最近、軽量小型のICOM製IC-DPR30が加わりました。

JHF賛助会員（JHFウェブサイト）にバナーを掲載）からも購入するこ

とができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を14台保有し、登録会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイト、会員ページの「JHFのご案内」に沿ってお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。うっかり忘れていたということのないようお願いいたします。

ロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したものが2画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。

第2弾は、フライトの基本中の基本であるテイクオフとランディングを収録しており、フロントライズアップの基本から場周アプローチによるランディングまで、各操作のポイントをつかみやすい内容です。

価格・申込方法：

頒布価格それぞれ1枚1,500円（送料込）で、お申し込み10枚毎に2枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、最寄りのスクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

■2017年JHFカレンダー頒布中

JHFフォトコンテスト入選・応募作品が彩るJHFカレンダーを好評頒布中。A3サイズの縦型、吊り下げタイプ。価格・申込方法：

頒布価格500円（送料込）。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。詳細はJHFウェブサイトに掲載。

■住所を変更したらお知らせください

住所を変更された方は、お手数ですが、次の項目をメール、FAX、郵便

などでJHF事務局にご連絡ください。

フライヤー会員No.／お名前／変更後のご住所／連絡先電話番号／メールアドレス

■お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301
TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089
E-mail : info@jhf.hangpara.or.jp
http://jhf.hangpara.or.jp/

*このJHFレポートには賛助会員からのお知らせを同封しています。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱東京UFJ銀行（銀行コード0005）
巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート216号

発行日：2017年（平成29年）1月20日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社サンライズ